第 15 回（ 2017 年度）
土壌物理学会賞（論文賞）候補の推薦（公募）について

土壌物理学会では，下記の要領で学会賞候補（推薦）を公募いたします.

学会賞種類：論文賞

対 象 論 文：2016（平成 28）年度に「土壌の物理性」（第 133，134，135 号）に掲載された論文（original paper）

推 薦 期 限：2017（平成 29）年 9 月 10 日（日）必着

推薦書に必要事項をご記入いただき，学会事務局（庶務幹事）までお送り下さい．推薦書様式は，学会ホームページ　http://js-soilphysics.com/prz　下部の “論文賞推薦書” をダウンロードしてご記入願います.

表　　彰：2017（平成 29）年 10 月 14 日（土）　2017 年度大会にて

2017 年度土壌物理学会大会のご案内

日　時：10 月 14 日（土） 9:00 ～ 18:00
場　所：北海道大学農学部
参加費：3,000 円 （要旨集代として．ただし，学生会員は無料.）

シンポジウムのプログラム，情報交換会，昼食弁当の申し込み方法等は，8 月 10 日に土壌物理学会ホームページ（https://js-soilphysics.com/conf）上に掲載します．また，大会当日に，学生会員の入会手続を行った学生は，参加費が無料 となります.

1. ポスター・セッション　農学部 N11，N21 講義室　9:30 ～ 11:00
ポスターは，9:30 までに所定の位置に掲示してください.
発表者は, 学会員のみとします．土壌物理学会発表要領に基づいて作成した発表要旨（A4, 2 ページ（200 字程度の研究紹介を含む）, pdf 形式）を, 学会ホームページ（https://js-soilphysics.com/conf）へアップロードして下さい．8 月 10 日受付開始，9 月 14 日締切です.

2. 土壌物理学会総会　農学部大講堂　11:15 ～ 12:15
総会では，土壌物理学会賞（論文賞）の授与を行います.

3．第 59 回シンポジウム　農学部大講堂　13:30 ～ 18:00
テーマ「土壌および帯水層中における吸着・微生物群集とモデリング」

（1） 土壌中におけるリン酸イオンの収着・沈殿現象
東北大学　大学院農学研究科　南條正巳

（2） 土壌鉱物による微量元素吸着挙動の予測
金沢大学　環日本海域環境研究センター　福士圭介

（3） 土壌の pH 緩衝作用とそのモデリング
北海道大学　大学院工学研究院　佐藤　努

（4） Origin of subsurface microbial communities
CEO at Aqueous Solutions LLC, Professor Emeritus at University of Illinois
Craig Bethke

（5） 総合討論

4. 企業展示　農学部 N31 講義室

5. 情報交換会　エンレイソウ　18:30 ～ 20:30
情報交換会において，土壌物理学会賞（優秀ポスター賞）の授与を行います.

6. 大会会場への交通手段
JR 札幌駅から，徒歩で約 15 分．詳細は，北大農学部 HP のアクセスマップをご覧ください.
「https://www.agr.hokudai.ac.jp/i/access」

7. 問い合わせ先:

土壌物理学会事務局 庶務幹事　柏木淳一
〒060-8589　札幌市北区北 9 条西 9 丁目　北海道大学農学部
電話 011-706-3641　E-mail: spsyomu@ml.affrc.go.jp

8. その他
（1） Sapporo Hot Spring Workshop：Reactive Transport Modeling
土壌物理学会大会に先立って，講演者の Craig Bethke 氏と佐藤努氏が，Sapporo Hot Spring Workshop, Reactive Transport Modeling を開催します.

Sapporo Hot Spring Workshop
Reactive Transport Modeling

Date: 11–12, October 2017
Place: Jyozankei Grand Hotel Zuien (定山渓グランドホテル瑞苑)
Instructors: Craig Bethke, Tsutomu Sato
Space is limited, so sign up early.
Details and registration: https://www.gwb.com/GWB11/Sapporo2017.php
What you will learn. Following a fully hands-on format, you will learn to construct, trace, and interpret models of transport in reacting geochemical systems. Specific topics covered include:

- Introduction to geochemical modeling
- Transport in flowing groundwater
- Dual porosity models (stagnant zones)
- Kd, Freundlich, and Langmuir sorption
- Surface complexation
- Colloid-facilitated transport
- Reaction kinetics
- Biodegradation
- Dissolution and precipitation
- Microbial catalysis and growth
- Effective graphical presentation
- Creating animation and video

Hosts and Sponsors: Aqueous Solutions LLC, Hokkaido University, University of Illinois

（2） 農業農村工学会土壌物理部会
10 月 13 日 (金) 午後に，北海道大学農学部大講堂において農業農村工学会土壌物理部会開催する予定です.

「土壌の物理性」閲読者氏名の公表とご協力へのお礼

土壌物理学会編集委員会

学会誌「土壌の物理性」は，1959 年（昭和 34 年）の創刊以来，今号で 136 号を迎えます．「土壌の物理性」の編集・発行に際しては，とりわけ閲読者の方に多大なご協力をいただいています．

土壌物理学会編集委員会では，閲読者への謝意を表すべく，ここに 2015～2016 年度（平成 27～28 年度）に閲読をお引き受けいただいた方の氏名を公表（五十音順・敬称略）致します．

今後とも，編集業務へのご支援，ご協力を賜りますよう，お願い申し上げます．

安中　武幸	飯山　一平	五十嵐俊成
井上　光弘	岩田　幸良	冠　　秀昭
小島　悠揮	小林　政広	斎藤　広隆
坂井　　勝	坂口　　敦	志賀　弘行
凌　　祥之	高橋　智紀	長　　裕幸
常田　岳志	釣田　竜也	取出　伸夫
中尾　誠司	中川　　啓	橋本　洋平
長谷川周一	花山　　奨	濱本昌一郎
深見公一郎	藤川　智紀	宮本　輝仁
武藤　由子	森　也寸志	諸泉　利嗣
安元　　純	吉田修一郎	渡辺　晋生

注） 投稿原稿と依頼原稿を対象とする．但し，「土粒子」「書評」およびシンポジウム総合討論の紹介原稿は除く．

135 号の訂正とお詫び

土壌物理学会編集委員長

江口の総説「農業環境中における放射性セシウムの挙動」において，下記のような誤りがありました．お詫び致しますとともに訂正をお願いいたします.

Table 1 Mean ± SD

（誤）

-0.52 ± 0.98

（正）

-0.49 ± 0.95

Fig.1 ， Fig.2 ， Fig.3 ， Fig.5（いずれもカラー図希望が白黒にて印刷．次ページに正しい図を掲載.）



Fig. 1　福島県農業総合センター内における a）緑地の裸地部（微凹地）と b）植生部（微凸地）における放射線量の測定（2011 年 4 月 15 日）.



Fig. 2　桜の花弁の不均一な分布：a）植生部（微凸地）に集積，b）水溜り（微凹地）に集積（2016 年 4 月，茨城県つくば市内）.

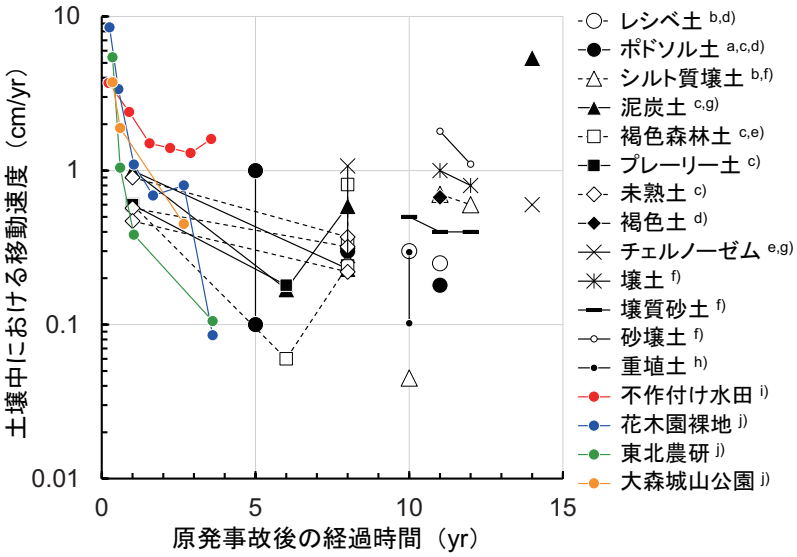


Fig. 3　欧州及び福島県内の様々な土壌中における ^{137}Cs の鉛直移動速度と原発事故後経過時間との関係．欧州データは，山口ら（2012）の表 5–1 に基づき作成：a）Bunzl et al.（1995）; b）Zygmunt et al.（1998）; c）Rosén et al.（1999）; d）Chilbowski et al.（1999）; e）Holgye and Maly（2000）; f）Forsberg et al.（2000）; g）Chilbowski and Zygmunt（2002）; h）Arapis and Karandinos（2004）．福島県内データは，i）高橋ら（2016）と j）塩沢（2016）に基づき作成.

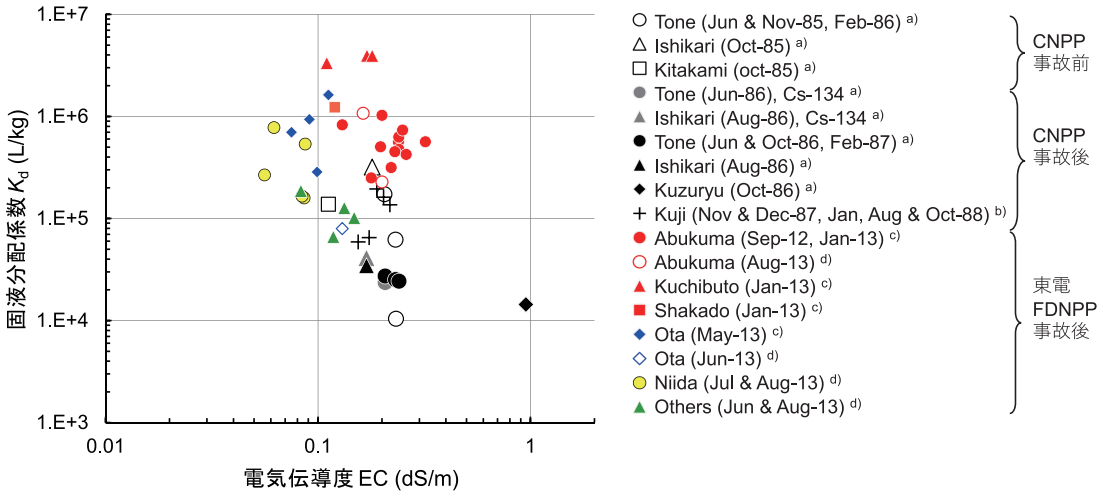


Fig. 5 河川水中の放射性セシウムの固液分配係数（K_d）と電気伝導度（EC）の関係．Ochiai et al.（2015）（阿武隈川水系と浜通りの二級河川）[d] 及び Tsuji et al.（2014）（阿武隈川水系）[c] の EC 値は論文中の実測値，Hirose et al.（1990）（石狩川，北上川，利根川及び九頭竜川の各水系）[a] 及び Matsunaga et al.（1991）（久慈川水系）[b] の EC 値は，採水地点及び採水日に最も近い実測値または推定値（EC 値の季節変化等を考慮）を水文水質データベース（国土交通省, 2016）に基づき与えた．